

10月15日(日) 第二礼拝「日本のリバイバル」 II列王記7章1-9節

エリシャの時代、サマリヤの町に大飢饉がありました。しかし、エリシャが神様の言葉をいただき、経済の回復を宣言すると、その通りになりました。現在、日本は御言葉の飢饉(神様の御言葉を聞くことのできない状態)ですが、ここに日本のリバイバルの秘訣があります。

第一番目、エリシャの祈りです。大飢饉という、絶望的な状況が来たのは、イスラエルの民が偶像崇拜をしたからです。エリシャは、神様の御前で自分の民族のために悔い改め、神様が与えてくださった御言葉や幻、夢を胸に抱き祈りました。妊娠中の母親が胎児の成長を見守り続けるように、御言葉の実現を想像し、祈り続けることが重要です。創世記1:1-3 何もないところ、やみ(混乱)が水の上を覆うところに、神様は御言葉によって天と地を創造されました。聖霊(神の霊)と御言葉(水)によって、新しく生まれるのです。御言葉を妊娠すること(incubate)、つまり、聖霊様が与えてくださる御言葉をいつも思う(口ずさむ)ことが重要です。信じる者はそれが実現するのを見ていきますが、王の侍従(知識があり、固定観念の強い人の型)はエリシャの言葉を疑ったために、民に踏みつけられて死んでしまいました。

第二番目、恐れからの守りです。モーセの誕生時、生まれた男の子はみなナイル川に投げ込むという厳しい命令が下されました。しかし、モーセの母は王の命令を恐れず、三か月の間モーセを隠していました。ついに隠しきれなくなった時、瀝青と樹脂を塗ったパピルス製のかごにモーセを入れ、ナイルの岸の葦の茂みの中に置きました。瀝青はイエス様の血潮と聖霊様を表し、この世の水(価値観、思想、汚れ、恐れ)から赤ちゃんを守るためのものです。かご(ヘブル語原語テバフ)はノアの箱舟でも使われている言葉で、神様の救いの約束です。日本という赤ちゃん(日本のリバイバル)が生まれる時も、神様が共におられ、イエス様の血潮と聖霊様が迫害の恐れから私達を守ってくださいます。

第三番目、リバイバルに向けて前進することです。本文3節4人のらい病人は、飢饉で死に直面しながらも、アラムの陣営に入ったら生き延びられるかもしれないという希望に向けて前進していきました。これはリバイバルに向けての希望と言えます。この4人とは、教会に与えられる賜物・働き(預言する人、見る人、聞く人、それを教える人、救済、奉仕、伝道、宣教する人)のことです。5節彼らは夕暮れ時に立ち上がりました。夕暮れとは、人間が一番絶望する時間ですが、そんな時に神様が働いてくださいます。7節「主がアラムの陣営に、戦車の響き、馬のいななき、大軍勢の騒ぎを聞かせられた」ので、誰も残っていませんでした。そして、4人は食べたり飲んだりしてリバイバルを体験しました。しかし、9節彼らは自分の行いを改めて王の家に報告することを決意します。私達もまた、ためらわずにこの良い知らせを伝えなければなりません。マルコ16:15 全世界に出て行き、全ての造られた者に福音を宣べ伝えなさいと主が言われています。前進する時に迫害がありますが、申命記31:6「強くあれ、雄々しくあれ。彼らを恐れてはならない。…主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。」と約束してくださっています。アーメン！